2027 年度

鳥取大学大学院連合農学研究科

後期３年のみの博士課程

学 生 募 集 要 項

PROSPECTUS FOR ADMISSION TO
THE UNITED GRADUATE SCHOOL OF
AGRICULTURAL SCIENCES, TOTTORI UNIVERSITY
(THREE-YEAR DOCTORAL COURSE)
2027

鳥取大学大学院連合農学研究科
（構成大学：鳥取大学・島根大学・山口大学）

THE UNITED GRADUATE SCHOOL OF AGRICULTURAL SCIENCES
TOTTORI UNIVERSITY

MEMBER UNIVERSITIES
TOTTORI UNIVERSITY
SHIMANE UNIVERSITY
YAMAGUCHI UNIVERSITY

鳥取大学大学院連合農学研究科のアドミッションポリシー

鳥取大学大学院連合農学研究科は、中国地方の鳥取大学、島根大学、山口大学の3大学から構成されており、平成元年に後期3年の博士課程として設立されました。

鳥取大学大学院連合農学研究科では、次のような人を広く受け入れます。

(1)生産環境科学専攻, 生命資源科学専攻及び国際乾燥地科学専攻の各専攻分野で必要とされる博士前期課程相当の基礎知識と学力を有する人、(2)より高度で豊かな専門的知識・技術及び俯瞰的な広い視野の獲得、さらにそれらを応用した独創的な研究に取組むことを志す人、(3)社会的責任感に基づく高い倫理観を身につけ、科学技術の発展と地域や国際社会の要請に寄与することを志す人、及び(4)地域、国際社会が直面する問題に対処するための専門的かつ高度な課題発見・解決力及びコミュニケーション力を身につけ、専攻分野の研究を先導することを志す人。

連合農学研究科では、これらの人を受け入れるため、出願書類(研究計画書を含む)及び口頭試問により多角的かつ総合的な評価による選考を行います。

各専攻が求める人材像は以下のとおりです。

【生産環境科学専攻】農林業における生産・流通・消費、農林業の生産環境、及び森林・流域環境に関わる諸問題に関心があり、これらの諸問題解決に取組みたいという強い意欲のある人。

【生命資源科学専攻】動物、植物、菌類等が備える多様な生命機能に対して高い関心があり、その分子レベル及び遺伝子レベルでの解明と、資源としての幅広い利活用を視野に入れたバイオサイエンスに関わる先端的研究分野に挑戦したいという強い意欲のある人。

【国際乾燥地科学専攻】世界の乾燥地における環境や食糧等に関わる諸問題に関心があり、幅広い視野と専門的知識・技術を生かして国際的に活躍したいという強い意欲のある人。

1. 専攻及び募集人員

専　　攻	募集人員
生　産　環　境　科　学	8
生　命　資　源　科　学	7
国　際　乾　燥　地　科　学	4

2. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者及び2027 年3月までにいずれかの資格を取得見込の者

1 修士の学位を有する者

2 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者

3 外国において、学校教育における16年の課程を修了した後、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者

4 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

5 文部科学大臣の指定した者
(大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究等の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者)

6 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2027 年3月31日時点で24歳に達している者

※上記5、6に該当する者は、「7. 出願資格の認定」を参照すること

3. 出 願 手 続

(1) 出願期間及び出願方法

2027 年1月 5 日(火)～1月 8 日(金)(必着)。受付時間は9時～12時、13時～16時。

郵送の場合は、封筒の表に「入学願書在中」と朱書し、「簡易書留」とすること。また、出願書類のうち(H)、(I)、

(J)、(K)については電子ファイル(Word データ及びその pdf データ)を鳥取大学農学部連大学務係までメール送付ください。

(2) 提出先
〒680－8553　鳥取市湖山町南4丁目101番地　　鳥取大学農学部連大学務係
電 話 (0857)31－5446(直通)　　FAX (0857)31－5683

(3) 出願書類　様式等は、本研究科HPからダウンロードできます http://rendai.muses.tottori-u.ac.jp/

(A) 入学願書 (様式第1号)

(B) 写真 1 枚:入学願書に貼付。上半身・無帽・正面向・3か月以内撮影のもの (縦4㎝×横3㎝)

(C) 履歴書 (様式第2号)

(D) 修士課程修了証明書又は修了見込証明書 (成績証明書により確認できる場合は不要)

(E) 成績証明書(1):出身大学の学部長(又は学長)作成のもの(出願資格認定申請者のみ)

(F) 成績証明書(2):出身大学院の研究科長(又は学長)作成のもの(様式不問、様式第3号でも可)

(G) 検 定 料:30,000円

構成大学(鳥取・島根・山口大学)の大学院修士課程を修了見込の者及び日本国政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は不要。

次の(1)又は(2)のいずれかの方法で、2026 年 12 月 28 日(月)から 2027 年 1 月 8 日(金)までに指定口座へ払い込みください。振込完了後、検定料振込を証明する書類(ATM より発券される振込明細の写し、振込完了が確認できる画面の写し、振込明細など)を様式第4号に貼り付けて提出してください。

【振込方法】(1)ATM(現金自動預払機)を使用し、指定口座へ振り込み
(2)個人が契約するインターネットバンキングを利用し、指定口座へ振り込み

【指定口座】以下のいずれかの口座へ払い込みください。

・山陰合同銀行 鳥取営業部 普通 3908393

・鳥取銀行 湖山支店 普通 0045136

【振込名義】「50 ＋ 受験者氏名」 例:50 トリダイタロウ

※ 必ず受験者氏名の前に「50」を入力ください。

※ 振込手数料は振込者負担となりますのでご了承ください。

※ 振込金額や振込名義の間違いに十分注意してください。

(H) 修士論文等

(a) 修士課程修了者　　ⅰ)修士論文の写(論文がない場合は、これに代わるもの)
ⅱ)修士論文の概要(様式第5号)(A4用紙に、和文の場合は2,000字程度、英文の場合は1,200語程度で記入。)

(b) 修士課程修了見込の者　　ⅰ)研究経過報告書(A4用紙に、和文の場合は12,000字程度、英文の場合は5,000語程度で記入(図表を含む))
ⅱ)研究経過報告書の概要 ((a)-ii)に準じて作成)

(c) 「2. 出願資格5、6」該当者　　ⅰ)(a)に準拠した「修士学位相当の論文」の写
ⅱ)「修士学位相当の論文」の概要 ((a)-ii)に準じて作成)

（d） 上記以外の研究発表等の資料があれば提出してください

（I） 研究計画書（様式第6号）：入学後の研究分野・研究内容についてA4用紙に記入。

（J） 志願理由書（様式第7号）：本研究科を選択した動機、今後の目標や目的を A4用紙に記入。

（K） 自己評価（様式第8号）：連合農学研究科におけるアドミッションポリシーに対する自己評価を記述する。

（日本語 800 字以内、英語 500 語以内）

（L） 受験承諾書 （様式第9号）：官公庁、会社等に在職している者のみ（所属長又は代表者の公印押印）

（M） 住民票等：外国人の志願者のみ

市区町村長発行の住民票又は在留資格が記載された査証の写。

出願時に渡日していない場合は、渡日後速やかに手続きを行い提出すること。

また、国費外国人留学生は必ず出身大学発行の「国費外国人留学生証明書」も提出すること。

※出願資格審査申請者は、「7. 出願資格の認定」で提出済の書類は再提出の必要はありません。

〔注意事項〕

（1） 入学願書に希望する主指導教員名を記入してください。主指導教員は後記の一覧表から選択してください。記入がない場合、出願書類は受理されません。なお、主指導教員予定者とは密接な連絡をとり、研究計画書を作成してください。

（2） 身体等に障がいのある志願者の事前相談について：身体等に障がいがある志願者は、受験及び修学上配慮を必要とすることがありますので、2026 年12月 9 日（水）までに、次の事項を記載した文書（様式自由）に医師の診断書を添えて、鳥取大学農学部連大学務係に相談してください。

①氏名、住所、電話番号　②志望の専攻、連合講座、主指導教員予定者名

③出身大学、学部、学科等の名称　④障がいの種類・程度　⑤受験上希望する配慮

⑥修学上希望する配慮　⑦出身大学でとられていた措置　⑧日常生活の状況

（3） 出願書類提出後は、記載事項の変更は認めません。

（4） 納入された検定料は返還しません。

（5） 本研究科では、大学院設置基準第15条に定める「長期履修学生制度」（学生が、職業を有しているなどの事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的な教育課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができるもの）を導入しています。この制度は、標準修業年限の3年を超えて研究指導を受けることを希望する場合、最大2年まで在学期間を延長することができるものです。この制度を希望する者は、鳥取大学農学部連大学務係に申し出てください。

（6） 本学には、学業優秀と認められた者に対して入学料免除制度があります。該当者には合格通知と併せて通知します。

（7） 学生募集に関する事項は、鳥取大学農学部連大学務係に照会してください。

（8） 提出書類の返却はしません。

4. 選 抜 方 法

入学者選抜は、口頭試問、提出書類の評価等を総合して行います。

(1) 口頭試問: 修士論文等の内容及び研究計画書を中心に50分程度(内容説明 30分程度、質疑その他 20分程度)行います。発表に使用するコンピュータは、使い慣れたものを持参してください。

(2) 口頭試問の日時及び方法

日　　時	方法	備考
2027 年 2月 9 日(火)13:30～17:00 2月 10 日(水)13:30～17:00	オンラインまたは 対面	受験生ごとの試験日時及び 入試方法は事前に通知します。

5. 合 格 発 表

2027 年2月24日(水)15時、本研究科HPに受験番号を掲載します。(https://rendai.muses.tottori-u.ac.jp/) また、合格者には合格通知書及び入学手続に必要な書類を送付します。

6. 入 学 手 続

(1) 手続期間:2027 年3月 2 日(火)～3月 5 日(金)(必着)。受付時間は、9時～12時、13時～16時。

(2) 入学に要する経費

(A) 入学料:282, 000円(予定額)(構成大学の大学院修士課程を修了後、引き続き進学する者は不要)

(B) 授業料:(前期分)267, 900円(予定額)〔年額は535, 800円(予定額)〕

※入学料、授業料は予定額です。入学時及び在学中に改定があった場合は、改訂後の入学料、授業料を納入していただくことになりますのでご了承ください。

〔注意事項〕

(1) 既納の入学料はいかなる理由があっても返還しません。

(2) 前期分の授業料は、2027 年5月末日までに納入してください。

(3) 入学料、授業料の免除(または徴収猶予)を希望する場合は、入学手続時には納入しないでください。

(4) 手続完了者が2027 年3月末日までに入学を辞退した場合は、申し出により当該授業料相当額を返還します。

(5) 日本国政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は入学料、授業料とも不要です。

7. 出願資格の認定

「出願資格5、6」該当者の資格認定は、次の書類の審査により行います。

(1) 提出書類

(A) 入学試験出願資格認定申請書 (様式第10号)

(B) 出身大学の学部長(又は学長)作成の学業成績証明書

（C） 履歴書 （様式第2号）

（D） 研究歴証明書(様式第11号)：研究を行った機関や会社等の所属長又は代表者作成のもの。該当する機関や会社等による証明ができない場合は本人からの申立書で代えることができる。

（E） 研究業績書(様式第12号)：「出願手続(3)(H)(c)」に記載の論文の概要(A4用紙に、和文の場合は2，000字程度、英文の場合は1，200語程度で記入。)

（F） 研究成果資料：研究業績の基礎となる論文の目録と別刷(写可)。その他研究業績を示す資料があれば添付。共同研究の場合は、担当した部分を明確にした資料も添付すること。

(2) 提出期間： 2026 年11月24 日(火)～11月27 日(金)(必着)。受付時間は9時～12時、13時～16時。

(3) 提 出 先：「3. 出願手続(2)」と同じ

(4) 審査結果の通知： 審査の結果は、2026 年12月 7 日(月)までに本人あて電話連絡します。

鳥取大学大学院連合農学研究科の概要

設置の目的

本研究科は、平成元年に、後期3年のみの博士課程の独立研究科として、鳥取大学、島根大学及び山口大学の各大学院農学系研究科（修士課程）の教員組織、研究設備及び施設を連合して設立されたものであります。本研究科の設置の目的は、中国地方の三大学が連合して、一大学のみでは成し得ない広範かつ専門性の高い教育研究分野を組織し、水準の高い農学系の大学院博士課程の教育研究体制を作り、生産環境科学、生命資源科学及び国際乾燥地科学に関する研究を推進させ、高度の専門的能力と豊かな学識をそなえた研究者・技術者を養成し、斯学の進歩と生物関連諸産業の発展に寄与しようとするものであります。また、国立研究開発法人国際農林水産業研究センターと連携して、教育研究の交流を図っています。

教育の目的

学生は、指導教員のもとで研究指導を受けながら博士論文を作成する過程において、専門分野の高度な知識・技能を修得し、また、豊富な教授陣により幅広い農学に関する豊かな学識を身につけ、独創的な研究能力を養います。

このようにして、農学・生命科学分野における独創的かつ先駆的な研究を推進できる人材の養成、及び農林業・生物関連産業の発展に寄与する人材の養成を目標としています。本研究科は、中国地方の産業の発展に寄与するために、産業社会人学生を積極的に受け入れます。また、外国人学生、とくに発展途上国からの留学生は、母国の発展に寄与する人材として積極的に受け入れます。

教育上の特色

（1） 学生は、研究指導を希望する教員名を届出ます。研究科は、当人の希望に検討を加え、当人の指向するところに最も適した指導教員を指名し、研究指導に当たらせます。

（2） 指導教員は、学生1人につき主指導教員1人のほかに副指導教員2人を当てます。従って、学生1人に3人の指導教員がつくことになります。

（3） 学生は、主指導教員が専任として在職する構成大学に配属され、研究指導を受けますが、他の構成大学の施設・設備を利用することができます。

専攻名と連合講座の概要

1. 生産環境科学専攻

(1)農業生産学連合講座

農・園芸作物の生産を量・質の両面において向上させるために、それらの生理、生態学的研究はもとより、遺伝、育種学的研究やバイオテクノロジー利用による改良、増殖に関する研究を行う。また、我が国の中国地方の農業生産向上に寄与する研究も行う。さらに、熱帯作物や乾燥地作物の研究に対応できる組織・施設がある。いずれの研究分野も、学理の究明から技術化にいたる理論を構築して高度な教育と研究を行う。

(2)経済・経営学連合講座

農林業における生産と流通に関わる諸要因と情報の的確な把握、分析を基礎として、国民経済や国際経済における農林業問題並びに各種経営体の合理的発展則などを解明する。また、農林業に必要な情報処理技術を開発すると同時に、国際的農林情報を解析して需給動向を測定する。

そして、これらを総合的に展開することにより農林業の経済的成立と発展に関する諸理論とその応用についての高度な教育と研究を行う。

(3)森林・流域環境科学連合講座

水系を1つの地理的単位と捉え、流域環境の保全・再生及び持続可能的利用について系統的かつ総合的に解明する。流域環境のうち、特に森林は重要な環境であり、また資源でもある。そこで、森林の持つ水土保全、生物多様性保全、再生可能資源、大気環境安定、保健休養などの諸機能について、さらに水系を成す河川及び湖沼等の閉鎖性水域の水質、生態系の保全及び持続可能な資源利用に関する基礎的・応用的研究を実践する。

(4)環境生物学連合講座

農林水産資源の保全、管理および活用を目的として、農林水産生態系およびその周辺環境において、種々の生物が織りなす生命現象を解明する。そのために、微生物、昆虫、植物および水棲生物などの生理・生態、植物-微生物相互作用、病害虫防除、農林水産業資源生物の評価などに関して、環境生物学に関する理論構築と技術の確立を目指した高度な教育と研究を行う。

2. 生命資源科学専攻

(1)菌類・きのこ科学連合講座

きのこを含む菌類を対象とし、菌類きのこが持つ多様な有用機能の活用、さらに未利用機能の開発を行うことによって、「環境保全」、「バイオ技術」、「健康増進」、「食料生産」に貢献しうる人材の育成と研究の推進を目的とする。そのために、菌類きのこ資源の探索、評価、保存等に関わる基盤領域から菌類きのこ資源の新機能の開拓と有用機能の利活用を目指す応用研究領域まで、幅広く菌類きのこ資源科学に関する高度な教育と研究を行う。

(2)生物機能科学連合講座

動物、植物、微生物など資源生物の複雑多様な生命現象を分子、細胞、個体及び異種生物間の相互作用系から生態系までの各レベルにおいて、系統的かつ総合的に解明する。

同時に、生物の持つ様々な機能の探索、改変、利用、管理、さらに高度な開発などの研究を通して、その結果を農業生産、発酵生産に応用する。このため、主として先端的生物科学と物質科学の両面から、バイオサイエンスの基礎と応用に関する高度な教育と研究を行う。

(3)資源利用化学連合講座

本講座は、化学および生物学的手法を駆使して生物の複雑多様な生命現象を解明することで、生物資源の有効利用を探ることを目的とする。また、本講座では、生物有機化学、生物無機化学、生化学、食品・栄養化学、分子生物学、細胞生物学、構造生物学の分野で、生物資源に含まれる低分子物質から高分子物質まで様々な生理活性物質の特性の解明を通して、生物資源の有効活用法の基礎と応用に関する高度な教育と研究を行う。研究結果は、農産物の生産性の向上や機能性食品素材並びに医薬品関連化合物の開発に貢献する。

3. 国際乾燥地科学専攻

(1)国際乾燥地科学連合講座

現在、人口増加と砂漠化による食料不足の問題はますます深刻化しており、人類に課せられた重要でかつ困難な国際的問題である。この問題を解決するには砂漠化防止と乾燥地における食料増産に向けた取組が必要である。国際乾燥地科学連合講座は、環境の改善と保全に関する応用的研究を目的とした水利用計画学、生態気候学、家畜飼養学、土壌圏生態工学、生物環境調節工学等を含む乾燥地科学に関する研究分野を横断的に統合した学際分野である。

本講座では、乾燥地科学領域において国際的に先導的な役割を果たし、世界的な砂漠化防止と緑化、乾燥地における食料生産等の乾燥地における諸問題の解決に貢献しうる高度で実践的な研究者、技術者の養成を目指した教育・研究を行う。

主指導教員となり得る者の教育研究分野一覧

※[1]:国際農林水産業研究センターとの連携　※[2]:公立鳥取環境大学との連携

1. 生産環境科学専攻

(1) 農業生産学連合講座

荒木　英樹(山口)	栽培学	不良環境下における作物の生産機能とその栽培学的応用
小林　伸雄(島根)	園芸育種学	植物遺伝資源の評価と育種利用
高橋　　肇(山口)	作物学	作物の省力・低投入型栽培体系の確立に関する研究
竹村　圭弘(鳥取)	園芸生産学	園芸作物の栽培生理に関する研究
田中　裕之(鳥取)	植物遺伝学	小麦粉品質の改良に関する遺伝育種学的研究
鶴永　陽子(島根)	食品加工学	食品加工における製造方法と機能性に関する研究
中務　　明(島根)	園芸分子育種学	園芸作物における有用形質関連遺伝子の解析と育種利用
野波　和好(鳥取)	農業生産工学	農作業の機械化に関する研究
平井　康丸(鳥取)	生物生産システム工学	コンバインの動力性能の最適化
松本　真悟(島根)	土壌・作物栄養学	土壌肥沃度に対応した作物の養分獲得機構の解明
谷野　　章(島根)	生物環境電気工学	生物環境関連技術への電気工学の適用

(2)　経済・経営学連合講座

Asres Elias Baysa(鳥取)	農村開発学・農業普及学	アフリカ・東南アジアにおける農村・農業開発プログラムに関する社会経済学的研究：特に、農業生産性および農家世帯の生計向上、貧困緩和への効果に焦点をあてて
木原　奈穂子(鳥取)	アグリビジネス会計学	農業・農村の組織運営と会計に関する研究
筒井　一伸(鳥取)	農村地理学	農山村の地域経済と地域づくりに関する研究
松田　敏信(鳥取)	消費者行動学	計量経済学による消費者行動の研究、特に食料需要の実証分析
松村　一善(鳥取)	農業経営学	農業経営と農村社会の相互関係に関する研究
保永　展利(島根)	地域経済学	条件不利地域の農地、地域社会、経済の持続性に関する研究

(3)　森林・流域環境科学連合講座

石井　将幸(島根)	地域基盤工学	水利施設の補修補強に関する設計手法の開発
岩崎　亘典(鳥取)	地理情報科学	地理情報システムを用いた里地里山の景観変遷に関する研究とオープンソース、オープンデータの活用
久保　満佐子(島根)	植物生態学	植物の生態および植生，保全に関する研究
永松　　大(鳥取)	植物生態学	森林・草原の植物個体群動態と植生科学，生物多様性保全
芳賀　弘和(鳥取)	森林防災環境学	森林域での防災と環境保全の両立に関する研究
藤本　高明(鳥取)	木材理学	木材性質変動の解析および計測評価手法の開発
山中　啓介(鳥取)	育林学	林業および森林管理に関する研究
吉村　哲彦(島根)	森林利用学	森林利用・木材収穫における社会的・技術的諸課題に関する研究

(4) 環境生物学連合講座

荒西　太士(島根)	保全生態学	水域生物圏の保全遺伝学と進化生態学
上野　　誠(島根)	植物病理学	植物-病原菌の相互作用における抵抗性発現に関する研究
上中　弘典(鳥取)	植物微生物相互作用学	植物における免疫応答と菌根共生の分子機構の解明
唐澤　重考(鳥取)	多様性生物学	無脊椎動物の遺伝子・種多様性に関する研究
木原　淳一(島根)	植物病理学	植物病原糸状菌の光環境応答

中　秀司(鳥取)	害虫制御学	ガ類を主とした昆虫類の化学生態解明と防除への応用
細井　栄嗣(山口)	応用動物生態学	害獣および希少動物の保護・管理のための生態学的研究
山口　啓子(島根)	水圏生態学	ベントスを中心とした生物の生態と水圏環境に関する研究

2. 生命資源科学専攻

(1)　菌類・きのこ科学連合講座

會見　忠則(鳥取)	微生物生産科学	微生物による食料及び有用物質生産の生化学・分子生物学
霜村　典宏(鳥取)	菌類育種栽培学	きのこ類遺伝資源の育種・栽培に関する研究
早乙女　梢(鳥取)	菌類系統分類学	きのこ類の系統分類と木材腐朽性担子菌の生態に関する研究

(2)　生物機能科学連合講座

有馬　二朗(鳥取)	生命機能化学	微生物・酵素の新奇機能探索とメカニズムの解明、及びその利用
石川　孝博(島根)	植物分子生理学	光合成生物における抗酸化物質生合成と活性酸素代謝機構
岩崎　　崇(鳥取)	生体制御化学	生体機能を制御する生理活性物質の探索および開発に関する研究
古水　千尋(島根)	植物分子遺伝学	植物の形態・成長と多様性を支える遺伝的基盤の解明と応用
松尾　安浩(島根)	微生物遺伝学	分裂酵母のシグナル伝達経路による細胞周期の制御機構
丸田　隆典(島根)	植物生理学	植物のレドックス代謝ネットワークとストレス応答
※[2]山本　敦史(鳥取)	環境質量分析学	環境中の機能性あるいは有害成分の質量分析法を用いた探索・評価

(3)　資源利用化学連合講座

阿座上　弘行(山口)	分子微生物学	バクテリアの宿主表面への定着の分子メカニズム
石原　　亨(鳥取)	天然物化学	植物・微生物が合成する代謝産物の機能，生理活性，生合成に関する研究
一柳　　剛(鳥取)	有機化学	合成化学的アプローチによる生物活性化合物の機能解明
河野　　強(鳥取)	生物有機化学	環境応答による休眠・代謝・寿命の制御機構
肥塚　崇男(山口)	植物代謝生化学	植物特化代謝産物の多様性の解明と代謝改変に関する研究
地阪　光生(島根)	食品機能化学	酵素および微生物による機能性食品成分の機能性の改変
清水　英寿(島根)	栄養病態生理学	食品由来腸内細菌代謝産物や藍藻類由来毒素による病態発症メカニズムの解明
Noothalapati Hemanth(島根)	分子分光・イメージング	AI 支援分光イメージング技術の創出と応用
美藤　友博(鳥取)	食品機能学	食品に含まれるビタミンやその他食品成分の生体機能に関する研究
藪田　行哲(鳥取)	栄養科学	抗酸化ビタミンの機能と酸化ストレス応答に関する研究
山本　達之(島根)	生命分子分光学	分子分光学の生命科学や医療への応用
吉清　恵介(島根)	分子認識工学	シクロデキストリン包接体の食品応用に関する研究

3. 国際乾燥地科学専攻

(1) 国際乾燥地科学連合講座

明石　欣也(鳥取)	分子細胞生物学	耐乾性植物のストレス分子応答および環境耐性植物の分子育種
Nigussie Haregeweyn AYEHU(鳥取)	土地管理	流域プロセスのモニタリング、モデリング及び管理に関する研究

安　　萍(鳥取)	植物生理生態学	乾燥地における植物の生理的反応と機構および生態学に関する研究
石井　孝佳(鳥取)	植物細胞遺伝学	細胞工学的手法による作物の改良
一戸　俊義(島根)	家畜飼養学	反すう家畜の栄養と生産システムの評価
猪迫　耕二(鳥取)	水土環境保全学	水土環境の保全と再生ならびに持続可能な利用に関する研究
荊木　康臣(山口)	生物環境調節工学	環境制御型植物生産システムに関する研究
遠藤　常嘉(鳥取)	土壌化学	乾燥地域における灌漑農地の塩類動態と土壌劣化に関する研究
緒方　英彦(鳥取)	水利施設工学	水利構造物の建設材料と構造性能の評価
岸井　正浩(鳥取)	植物遺伝資源開発学	環境耐性が高い植物遺伝資源の育種への活用研究
衣笠　利彦(鳥取)	乾燥地緑化保全学	乾燥・半乾燥草原に生育する植物の生態学および生態生理学
木村　玲二(鳥取)	境界層気象学	乾燥地における熱収支・水収支の解明に関する研究
黒崎　泰典(鳥取)	乾燥地気候学	乾燥地における気候変動、風食、ダスト発生、ダストの気候影響
佐久間　俊(鳥取)	植物分子育種学	作物の重要形質を制御する遺伝的基盤の解明とゲノム育種
清水　克之(鳥取)	水利用学	農業用水管理のモニタリングと評価
鈴木　賢士(山口)	気象学	降水メカニズム解明のための観測研究と降水粒子測定手法の開発
田川　公太朗(鳥取)	自然エネルギー工学	自然エネルギー利用技術の開発と最適システム設計に関する研究
谷口　武士(鳥取)	微生物生態学	土壌および植物根圏微生物の生態と利用
坪　　充(鳥取)	気候リスク管理学	乾燥地における農業気象と気候変動対応型農業
西原　英治(鳥取)	乾燥地作物栽培学	乾燥地を含む地域における作物栽培体系の構築に関する研究
兵頭　正浩(鳥取)	施設環境材料学	農業水利施設の維持管理と環境を考慮した材料に関する研究
Fenta Ayele Almaw(鳥取)	水文学および地理空間解析	水文過程のモニタリングおよびモデリング、水文気候極端現象の解析、ならびに地理空間解析手法の応用
藤巻　晴行(鳥取)	土壌保全学	乾燥地における塩類集積および土壌浸食の防止と修復技術の開発
山田　　智(鳥取)	植物栄養学	乾燥地における植物のストレス応答機構に関する研究